

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190501817), 法人名 (株式会社 風和里), 事業所名 (グループホームふわり藻岩下 1Fユニット), 所在地 (札幌市南区藻岩下4丁目2番7号), 自己評価作成日 (令和5年1月17日), 評価結果市町村受理日 (令和5年3月17日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

札幌市の10ある行政区のひとつであるこの南区は、市域の約6割を占める広大な面積を持ち、札幌の魅力の一つである豊かな緑や、市民の水源地のほとんどをこの大自然が担っており、そんな自然に恵まれた環境に立地しており、四季折々の変化を肌で感じる事が出来ます。歩いていると小動物に出会ったりどこかほっとするような、穏やかな暮らしがここにはあります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022&kani=true&JigyosyoCd=0190501817-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年1月31日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りのバス停から徒歩圏内にあり、藻岩山の裾野にある緑豊かな住宅街に位置している。コロナ禍においての支援を暗中模索し、感染症予防対策を万全にして苺やぶどう狩りへの外出、クリスマス会は職員の身内によるピアノの伴奏で利用者が歌い、日常では、ベランダでの流しソーメンや焼き肉、お茶会等を企画実行し、利用者の明るい表情が見られている。家族とは、感染症の状況を見極め15分程度の面会やラインのビデオ通話、電話での支援を行い、さらに担当職員直筆による利用者の日常や写真を掲載している毎月のお便りで安心感が得られるよう努めている。身体拘束や虐待廃止、接遇に向けての取り組みは、定期的に外部講師を招き、禁止の対象となる11項目を始め多岐にわたる内容になっており、職員は学びをケアに反映できるよう自己研鑽に励んでいる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff actions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域密着型サービス』を念頭に作成した運営理念がある。ホーム内、玄関、各ユニット内、交流室に掲示し確認、共有出来るようにし実践につなげるようにしている。	系列事業所との共通理念を事業所理念として、日々の業務で実践に努めている。新人研修では、法人職員が運営やケアの根本的な姿勢を示す理念について説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練など協体制度は取れていない。近隣の方と一部除雪を手伝ったり、手伝ってもらったりはしている。町内会の婦人部よりの的に雑巾の提供がある。課題である。	地域情報は回覧板で得ているが、町内会活動も自粛しており、参加する機会が無いが周辺の清掃や学校主催の廃品回収に協力している。地域との関係性強化を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの運営状況、現状報告を行い頂いた意見やアドバイスを反映しさらなるサービス向上に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍でもあるため、感染防止の意味合いからも書面会議を継続している。	会議は書面で行われ、利用者や職員の状況、行事内容、事故報告、推進委員からのコメントを記した議事録を作成し関係者に届けている。感染症拡大防止策について労いの言葉等が寄せられている。	議事録配布後に地域包括職員から意見や情報が寄せられているが、コロナ禍以前のように地域や家族からも提案等を引き出し、意見や情報交換の場となるよう期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことなどは連絡し、助言して頂いている。	各部署の窓口担当者とは事案により法人職員と管理者が関わりを持ち、運営等の向上に生かしている。FAXや電話でのやり取り、認定調査等の来訪時は情報を提供するなど連携体制を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に、3か月に一度委員会を開き、年3回研修会を行っている。	指針に基づき適正化委員会や外部講師を招いての研修会を適宜開催し、職員の理解を図っている。職員は自己点検シートで自身のケアが適切であるかを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での虐待防止の研修で、職員全員が参加、施設全体のケアの見直し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている入居者様がいる。また、これからも利用を検討している入居者様ご家族もいる。制度について職員がご家族様に説明できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、契約時に説明を十分に行い、ご理解、ご納得いただけるよう時間をかけ行うよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、カンファレンス等の機会に意見や要望を確認しています。また、運営推進会議等でも確認できるよう努めています。	毎月の「藻岩下便り」は、事業所からの言葉に加え、担当職員直筆のコメントと写真を掲載して家族に送っている。家族の要望や意見は、必要時の電話や面会時で聴取し、職員間で検討の上適切に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットでの会議や、個人面談等で意見や提案を聞く機会を作っている。	法人職員は頻繁に事業所を訪れ現状を管理者と共有し、改善点等を協議している。法人職員と管理者は、業務上や個別の面談で職員の意見を聴き取り、職場環境の整備に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等を把握し、今よりもスキル向上を意識し勤務できるよう環境や、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットでの会議や、個人面談等で意見や提案を聞く機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議等にて意見交換、研修を行う機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	過去の生活歴等の情報に十分に目を通し把握することで、入居後も引き続き安全かつ安心して暮らせるように支援を行うよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様ともコミュニケーションを密にとりながら(電話、ラインの利用も含む)情報共有出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様ご本人のお気持ちを優先し、必要とされる支援を行うように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主体で行動はせず、ご本人様の想いを大切にし寄り添った支援ができるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様、ご家族様のお気持ちを考え、支援することを心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人から年賀状等届いたときは返事を出すように努めている	面会は、ラインのビデオ通話や感染症予防対策の上交流室で15分程度とし、利用者や家族が顔を見て話せる機会となっている。電話や手紙、年賀状の取り次ぎを行い、さらに買い物好きな利用者の要望に応じて大型スーパーと一緒に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション、洗濯物をたたんで頂くなどのお手伝いを通し、職員が間に入りながら入居者様同士の交流が図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了しても、グループホームの機能として気軽にご相談できるような関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、ご本人との会話、表情を通して希望、以降の把握に努めています。	職員は日常の中から、利用者が何を思い何をしたいかを会話や素振り、家族からの情報、個人記録等から推し量っている。また、最期の生活拠点についても、利用者や家族から意向の聴き取りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活歴、生活環境を理解して、居心地の良い生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートを活用したり、毎日の申し送り、ユニットでのカンファレンスで入居者様の現状を把握出来るようにしている。また日々の生活からご本人の能力の把握が出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、不明なことはご家族に確認したり職員と話し合いをし、現状に合った介護計画を作成するようにしている。介護計画が独り歩きしないよう注意している。	介護計画は、利用者や家族の意向、全職員の気付き等を踏まえて作成している。介護記録簿にはサービス内容が記載されており、実践への意識付けになっている。毎日、実施モニタリング表で支援目標の実践をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者様の情報はなるべく細かく記録をするようにしているが、まだ十分ではないかもしれない。各入居者様毎にバイタルチェック表を作り、記載して変化に気づけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様のその時々状況に応じ柔軟に対応できる体制づくりを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用した支援はできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様に体調の変化が見受けられたら、かかりつけ医と密に連絡を取って状況を伝え指示をいただいている。相談しやすい関係になっている。また、訪問診療医以外でも、必要であれば受診支援を行っている。	利用時に希望の医療機関を聞いているが、現在は全員が月2回の往診医による診療を受けている。他科受診は、家族の協力も得ながら職員が同行し、各々の受診結果は関係者と共有している。週1回訪問看護師による健康管理も施され、早期受診にも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師が来設し健康チェックを行っている。職員から体調の変化等お伝え指示を頂いている。気軽に相談できる関係は構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の都度、病状の確認な地域連携室MSW等を通して情報のやり取りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急に重度化した場合等、キーパーソンと容態の変化や説明をしている。事業所としてできること、できないことを伝え、必要な時は主治医に説明して頂いている。	契約時は、重度化や看取りの対応を各々の指針に沿って説明をし同意を得ている。容体悪化時は、主治医から家族に状況説明を行っている。関係者と常に情報を共有し、家族の意思確認後に最終ケアの開始としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は定期的に確認をしている。AEDの講習会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所轄消防署や設備業者等の協力を頂きながら避難訓練を実施しているが、地域との協力体制はもう少し整えていく必要がある。今後の課題でもある。	事業継続計画に基づく大規模災害時訓練実施要綱に沿って、年2回、日中・夜間時の火災想定と、年1回、夜間の地震想定避難訓練を図上訓練も含めて実施している。訓練後は検証を行い、次回の訓練に生かしている。災害時の必需品も随時用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排便の確認やトイレ誘導時等、ご本人の行動、ご様子をみながらそっと誘導するようにしている。お声がけについては職員同士注意し合っている。	外部講師による接遇研修や業務上での学びを生かして利用者寄り添っている。特に排泄や入浴時は、羞恥心に配慮し、また、利用者に関する伝達や記録時は個有名詞を用いず、個別の記録簿も適切に扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が選択することが出来る機会をなるべく作るようにしている。ご本人の決定を最優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いはもちろんしていないが、その日により、また時間的に職員が少ない時などは、職員のペースで1日の流れが進んでいくことがないとは言えない。今後の課題でもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装ができるよう、職員と会話しながら一緒に選んだりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日のお食事の献立をボードに掲示している。それをみながら入居者様と会話を膨らませたりしている。できることが可能な入居者様を巻き込み食事の下ごしらえや片付けを行っている。	業者からの献立と食材を使い、利用者の協力も得ながら職員が調理をしている。献立のレンジや菜園の野菜を活用、出前や持ち帰り、利用者の要望でおはぎと一緒に作り、暑い日には流しソーメンで涼を感じるなど、食の楽しみを図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、職員全員がみることができ日々の変化に気づけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の口腔の状況に応じ。歯ブラシ、歯間ブラシ、舌ブラシ、洗口液を組み合わせ口腔ケアを行っている。できない方は介助し行うことが出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プリストルスケールを活用し、便形状を数値化し、その方の排便周期や量を記載している。それを元に誘導している。	ユニットにより違いはあるがトイレでの排泄を基本とし、自力排泄の利用者見守り、声かけやサインを見逃さずトイレへ誘導支援を行っているが、状態によってはベッド上での支援もある。失敗があっても、布下着を希望する利用者の思いに応えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に応じ、牛乳やヨーグルトなどの乳製品や果物を召し上がって頂いたり工夫している。 極力便秘薬を使用しないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人に確認してから入浴している。便汚染等があった時なども対応できるようにしている。	毎日入浴できる態勢にあるが、週2~3回を目安に支援している。無理強いせず、入浴時は入浴剤の新湯で職員と会話を楽しんでいる。利用者の状態により足湯をしてのシャワー浴もあるが、湯加減や回数等は要望に応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	記録や申し送りを考慮しながら、日中眠そうにしている時は確認し居室で休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの薬について理解し、セット時、服薬時は職員2名でダブルチェックをしている。誤薬防止に努めている、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のハンガー掛け、たたみ、調理の下ごしらえ、食器洗い等職員と一緒にやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、集団での外出は最近行えていないが、天候の良い時はホーム敷地内、近くの公園まで散歩に行っている。	外出支援も自粛しているが、利用者は花や野菜の手入れ、駐車場で散歩を兼ねての日光浴、1階ユニットは、ベランダで流しソーメンや焼き肉、お茶会等で外気に触れている。2階ユニットは、苺・ぶどう狩りを企画し、利用者から好評を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	上記49. 18同様、買い物に行ったりの外出は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	TV電話を活用し、ご家族様と会話したりできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度に常に気を配っている。定期的に窓を開け換気を行っている。また、季節を感じて頂けるようフロアを中心に入居者様を巻き込みながら飾りつけを行っている。少しでも居心地がよくなるよう努めている。	共用空間は、換気や温湿度、清掃等に配慮がある。利用者は、居間でまゆ玉作りやお雛様を飾り、新聞を読み、将棋崩しやオセロを楽しみ、洗濯物を畳むなど、自然体で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には、ご本人が使い慣れたものや愛着のあるものを持ち込んで頂くようご家族様にもお話をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人が使い慣れたものや愛着のあるものを持ち込んで頂くようご家族様にもお話をしています。	8畳ある居室には、クローゼットを設置している。タンスや仏壇、テレビ等は動線を確保して置かれている。殆どの利用者は寝室としての認識が強く、日中は居間で過ごすことが多い状況にある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど入居者様のADL変化に伴い、手すり等設置したり、家具のレイアウトを変更したり工夫している。		